

一、私ハ大正十一年外務省ニ入り昭和十六年ヨリ昭和二十年迄在勤公使トシテ勤務シ昭和二十一年三月退官シマシタ 其間昭和九年四月外務事務官トシテ歐米局第二課勤務ヲ命ゼラレ昭和十一年九月外務書記官ニ任セラレ歐亞局第二課長ヲ命ゼシ英佛獨伊等歐洲諸國トノ外交關係ヲ主管シ昭和十三年四月迄其職ニ在リマシタソシテ昭和九年四月カラ昭和十二年十月ニ至ル迄ノ間ニ於テ歐米(後ニ歐亞)局長ハ東郷茂徳氏デアリマシタ

二、昭和十一年二月初メ頃在獨代理大使井上英事官カラ外務次官宛半公信ヲ以テ在獨陸軍武官ガ獨國側ト非公式ニ政治的詰合ヲ爲シツツアルニ日報告越シマシタ其後暫クシテ同年四月有田八郎氏ガ外務大臣ニ就任サレシガ其後間モナク歸朝中ノ武者小路大使ガ獨逸ニ歸任ノ爲メ東京出發ニ當リ有田大臣リ同大使ニ對シ當時ノ諸般ノ事情ニ鑑ミ日獨間ニ何等カノ政治的協定ヲ締結スルニト時宜ニ適スト考ヘンカラ歸任ノ上ニ其ノ心算ニ現地ガ研究アリ度キニ日語セラシ趣デアリマスガ同大臣ハ

以下ニ述ブル如ク之ヲ為出未得ル限リ、努力ヲ盡サシマシメ。

四、當時外務省、陸軍省間、會議ニ於テ、東郷局長、有田外務大臣ト共ニ

獨乙ト、防共協定ヲ締結スルニ付テ、世界、各地ニ重大ニ利害關係ヲ有シ

特ニ支那問題ニ深ク關心ヲ有スル英國ト政治的協定ヲ締結スルコトヲ

絶対ニ必要ナリト主張シ之ニ對シ陸軍側、強硬ニ反対、却テ遂ニ

陸軍ヲシテ此條件ヲ受諾セシムルニ至リマシタ。

次ニ獨乙側提出ノ防共協定案文ハ現在見當リマセン、テ全部ヲ正確

ニ記憶シマセン、カ東郷局長ハ伯林ニ於ケル獨乙ト、交渉ニ於テ案文ノ文句

又内容ニ付次ノ如キ重要改訂ヲ要求セシメ之ヲ貫徹シマシタ。

一、防共協定案ニ宣傳的、字句多ク殊ニ其ノ前文ニ「ヒットラー」張リ、

文同モアリマシタ、テ斯ル文句ヲ「トリン」ガウシシマシタ。

只、同協定、本文ヲ切リテ事務的、モノニシマシタ、即チ「コギン」テ「ン」ノ破壊

日本ノ行動ニ對スル制限ニ關スル限り事實上本條ヲ骨抜きニシマシタ。

五、尚對英關係ニ付テハ東郷局長ハ支那ニ重大利害關係ヲ有スル英國トノ間ニ協定ヲ遂ゲテ日英關係ヲ円滑ニシ之ニ依テ米國トノ關係ヲモ改善シテ

世界ノ平和ヲ維持スヘキデアルト屢々私ニ話サレ日獨防共協定ノ條件トシテ英國

トノ協定締結ヲ主張シタノハ右ノ信念カラ出デテ居ルトノコトデアリマシタ。然レシナカラ

防共協定締結當時ノ事態ハ英國ノ同意ヲ得ルニ不利ナルモノガアリマシタノデ交渉

ハ始メラレマセンデシタガ東郷氏ハ猶々希望ヲ捨テズ昭和十二年春頃カラ英國トノ

交渉開始ヲ決意シ外務省ノ支那關係當局及上司ヲ勤カシ軍部トモ交

渉シテ英國ノ在支權益尊重ヲ骨子トスル成案ヲ作り上ゲ吉田駐英大使ニ英

國政府ト交渉方訓令ヲ發シマシタガ吉田大使ヨリ種々ノ註文出デテ時日ヲ費シ

漸ク交渉開始ノ段取トナツタ時ニ支那事變ガ勃發シタ爲メ東郷氏ノ計画ヲ

瓦解セシメタノハ返ス
ノモ遺憾ニ耐ハマセン。

昭和二十二年（一九四七年）四月五日 於東京

供述者

山路章

印

右ハ當立命人ノ面前ニテ宣誓シ且ツ署名捺印シタルコトヲ證明シマス

同日於東京

立會人

西春彦

印

№ 1. 100 †

良心ニ従ヒ眞實ヲ述ベ何事ヲモ秘セズ又何事ヲモ附加セザルコトヲ誓フ

宣

誓

書

署名捺印

山路

章

印